



日本キリスト教団  
三軒茶屋教会

# 三軒茶屋 教会通り

〒154-0024  
東京都世田谷区三軒茶屋 1-31-5  
TEL/FAX: (03)3418-4933  
編集/発行: 広報部

第22号 2004年12月発行

## 生かされる命



牧師 陣内厚生

クリスマスを迎えるというのに、私たちをとりまく現実には依然として暗く陰うつです。それは、毎日のように人命が奪われていく、最悪の状況が改まらないどころか、ますます組織化され正当化されていつているからです。こんなに人命が軽々しく扱われてよいはずはありません。

これと対極にある平和の概念こそが、命の尊重されることを意味していると言えましょう。その平和を望む私たちは、このクリスマスに真剣に「命の問題」を考えてみる必要があります。

創世記二章には、「主なる神は、土(アダム)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた」と記されています。万物の創造者なる神は、ご自分に似せて人を造り、それは「極めて良かった」というのです。これは神と人間の関係を教えており、人間の存在は神の前で絶対に頭が上がないのだということを意味しています。「息」とは、「魂」であり、「人格」のことです。神が精魂を込めて造った作品は、

かけがえのない大傑作で値段のつけようがありません。

私たちの命、または存在は、実に不可思議なナゾに包まれています。曰く、「私はなぜこの世に生まれてきたのか」。確かに、自分で望んで生まれたわけではなく、親を選ぶことも、時を選ぶことも、場所を選ぶことも、性別を決めることも一切自分の意のままにはなりません。しかし今、自分が生きていることだけは確かです。これは重大な出来事といつてよいでしょう。

神が人間を造られたとき、いや、私を誕生せしめられた、「命の息を吹き入れられた」瞬間、それは、神の大きなお許しが与えられたことを意味します。つまり、「お前を生かしてあげよう」と。神は代えがたい恵みをもつて、一人ひとりの命を生かしてくださっていることを認識しなければなりません。

聖書によれば、独り立ちしたアダムは、神との関係を大切にしている間は平穏でした。しかし、一度、この関係を打ち壊すと、つまり神の言

葉を守らず、罪の赴くままの生き方に陥ったとき、それは一転して悲惨でした。この姿は、まさに私たちのこの世に生きるナマの人生を、アダムがそっくり演じている、とも言えます。神はアダムに「(あなたは)どこにいるのか」と追及されます。

この問いには「凄みがあります。『お前は何をしたのか。いま何を考えているのか。これから何をしようとするのか。どんな方向に向かうのか。すべて責任がもてるのか?』」など、あらゆる問題がこの問いに含まれているのです。この神の問いかけから私たちは逃れることはできません。

さて、私たちは、自分の命がどんなに神から愛され、この世に送り出されてきたかを覚えましょう。そして、それぞれの人生に神が関わってくださり、最適の生き方と目的とを考え備えてくださっていることに感謝しましょう。クリスマスに際し、「わたしたちの間に宿られた」(ヨハネ福音書一章)キリストのご存在を、わが命を照らす光、まことの命として仰ぎましょう。